

## 仮の用法“<sup>かしゃ</sup>仮借”

漢字は言葉を表わしたものですから、“発音”と“意味”の二つを兼ね備えています。その意味では、漢字を“表意文字”と称するのは誤っています。

たとえば“十”は、針の形を表わした“はり”という意味の字ですが、“はり”の中国音の

“シン”は、数の“<sup>じゅう</sup>十(とお)”を表わす言葉と同じ発音を備えていました。

ところが数の“十”を表わす漢字を作るのがむずかしいものですから、針と発音が同じだということで、針の字を借りて、数の“十”を表わすことにしました。<sup>かり</sup>仮に(間に合わせに)借りたものだというので、この用法を“仮借”と名付けました。漢字の本来の意味を捨てて、その発音だけを借りるわけです。

“仏”という字は、インドの“<sup>ブッダ</sup>ブッタ”という言葉をもとに、“仏陀”と、仮借により表わしたものです。“釈迦”(お釈迦様)もインドの“シャーカ”という言葉の仮借です。また、英国は、イギリスの仮借“英吉利”の頭字、独国は、

ドイツの仮借“独逸”の頭字、伊国は、イタリーの仮借“伊太利”の頭字にそれぞれ国という字を付けたものです。

昔、わが国の言葉を漢字で書き表わすのに、この仮借を用いました。

### 万葉集の

わがやどに さかりにさける うめのはな  
和我夜度爾 左加里爾散家留 宇梅能波奈

ちるべくなりぬ みむひともがも  
知流倍久奈利奴 美牟必登間我母

という表記を“万葉仮名”と呼んでいますが、これは恐らく、中国の帰化人が教えてくれたものだと思います。

なぜかと言いますと、<sup>かな</sup>仮名の名というのは字のことであり、“仮字”とも書きますが、それは“仮借字”の略語だからです。仮名は日本独特のもので、日本人の発明だと言われていますが、それは真実ではありません。

現在のひらがな、及びカタカナは日本人の発明である、と言うのはよいと思います。